

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400489		
法人名	医療法人 岡本会		
事業所名	グループホーム 柳瀬		
所在地	高知県吾川郡いの町柳瀬本村892番地		
自己評価作成日	平成30年5月7日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は国道194号線沿いに位置し、診療所が隣接、周囲には駐在所、郵便局、理美容室、喫茶店、川の駅が立ち並んでいます。事業所眼下には清流仁淀川を見下ろし、春には対岸の山々は山桜一色となって心を和ませてくれ、季節の移り変わりが肌で感じられます。事業所生活においては母体法人病院との医療連携を図り、食生活での健康管理の充実、利用者一人ひとりの生活歴に合わせた残存機能の維持向上、回復、自立支援に向けた取り組みを行っています。

地域住民との交流を日ごろから大切にしており、系列施設合同の笑運動会、春祭り、夏祭り、敬老会、喫茶室、防災訓練等の行事への参加をしてもらうことにより、一層の理解と協力体制を築いております。

職員は、内外の研修会に可能な限り参加して介護ノウハウの向上に努めるとともに、チームワークを大切にし、訪問して下さる方々を笑顔で迎えられる、明るい職場づくりに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihontrue&JiyosyoCd=3972400489-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成30年5月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は美しい山川の自然に恵まれた山間地域にあるが、道の駅や郵便局、警察駐在所、民家が並び、利便性にも富んでいる。元診療所を活用した建物の外見は古いが、内部はゆったりとしたスペースが確保されている。廊下も広く、居室も十分な広さがあり、季節を感じさせる花や、入所者の写真を工夫して掛けるなど、くつろげる雰囲気がある。また、利用者や家族がいつでも休んだり、話しができるよう手作りカバーのかかったソファが置かれている。

職員は理念を毎朝の朝礼で確認し、研修会にも積極的に参加して、利用者のケアに活かせるよう取り組んでいる。医療機関との連携もとれており、近隣住民は日頃から農産物をもらったり、地域主催の体操に出かけるなど、地域との交流も活発に行われている。

利用者の平均年齢は90歳を超え、さらに高齢化が進む中、「転倒させない」「おいしく食べる」「みんなが仲よく」ということをモットーに、職員が一丸となって利用者の心身の機能維持に努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:優

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、利用者の尊厳遵守、地域との交流という基本理念を玄関、ホールに掲示し、職員間で共有するとともに、ケアの実践ができるように努めている。	基本理念は朝礼で唱和し、どうしたら事業所の温かみが出るか等を皆で話し合っている。「転倒させない」「みんなが仲よく」「おいしく食べる」を大切に作る共通認識のもとに、職員は日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加するほか、地域住民にも施設内訓練に参加してもらっている。畑を借りて野菜をつくり、野菜等のおすそ分けも得る等、日常的な地域との交流に努め、事業所が地域の拠点となるよう努めている。	地域からは畑を借りて、じゃがいも等の野菜を作っている。地域住民からの声掛けや、米などのおすそ分けもある。地域のミニデイサービスに利用者5名程度が参加したり、近隣住民に事業所の喫茶室に来てもらったりと、積極的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民には職員から先に挨拶を交わすことにより、利用者とも自然なかたちで会話が生まれ、認知症高齢者に接する緊張感をほぐしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者入退所状況、ヒヤリハット件数、職員の研修会参加報告、事業所での活動状況等をきめ細かく報告している。毎月の事業所通信にも行事を満載して、日々の事業所生活の評価につなげている。	利用者、家族、町職員、地域住民の参加を得て、運営に関する各種報告だけでなく外部評価結果も報告し、意見をj得て運営に活かしている。毎月の事業所通信では、家族に細かく報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に数回行われ地域包括支援センターとのグループホーム連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行い、日頃から相談できる協力関係の構築に努めている。	2ヶ月に1回の定期的な意見交換会や介護保険認定調査時などで町担当者と顔を合わせる機会が頻繁にあり、必要な相談をしている。最近では、インフルエンザ罹患状況に関するjこと、ヒヤリハットの報告を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県や町が主催する研修会への職員参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いて内部研修を実施し、協議を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	年2回の研修受講職員は、内部研修で他の職員に伝達をしている。「言葉の拘束」にも留意し、リスクに関する話し合いを行い、けがをしないよう布団をまるめて置いたり、外出傾向のある利用者には観察を強化し寄り添って過ごすなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する研修会への参加や内部研修で高齢者虐待について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について戸惑う事のないよう、職員は、外部研修への参加や勉強会で、理解と知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書や契約書の内容説明を十分に行い、契約内容の理解、納得が得られるよう努めて、理解を得たうえで契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、行事の参加時等に機会を作り、家族が気軽に意見要望を出しやすいよう、信頼関係づくりに努めている。要望、褒め言葉は職員に伝え、職員の意欲向上や運営の改善につなげている。	利用者、家族とのコミュニケーションに努め、職員は積極的に話しかけている。玄関に意見箱を設置しているが、意見が入ったことはない。運動会時に家族懇談会として呼びかけて家族に集まってもらい、意見など書いてもらおうと試みているが、よいという意見ばかりとなっている。	家族懇談会を家族が主体的に運営する会として位置付け、些細な要望や意見でよいので、家族から意見が聞かれる場となることを期待する。併せて、意見ノートをつくるなど、家族から本音の意見を引き出す工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、意見交換の場を設けて情報共有を図り、できることから運営に反映させている。	月1回の職員会では、職員から母の日のメニューの工夫案、おしゃれなおやつづくり案、運営に役立つ本の購入希望等の提案があり、ほぼ実現されてきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの長所を活かし、自信を持って能力が発揮できる、明るい職場環境づくりに努めている。また、職員の生活状況に合わせて希望を聞き、勤務シフトの調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が母体法人内外での研修に可能な限り参加できるよう配慮し、積極的な資格取得を促している。事業所内でも定期的に研修を行い、介護技術、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡協議会や市町村事業での交流を通じて勉強会や事例発表を行い、職員の自信につなげ、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人、家族とも話しをして、不安や要望等を聞き、受け止めて、事業所生活での不安の解消に努め、安心して生活が出来るよう支援をいっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはじっくり話しを聞く機会を持ち、家族の状況や意見を聞くとともに、面会時等で日頃から気軽に相談ができる機会を作り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の状況や要望を聞き、入所前に利用していたサービス機関や医療機関等からも多くの情報を収集して、カンファレンス時等に検討しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と日常的に接しながら、家事などを一緒に行うとともに、季節の行事、作法、料理などのアドバイスをもらうなど、互いに支え合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の事業所通信や手紙、電話、面会等に利用者個々の生活状況や心身の状況を伝え、情報を共有し、利用者を共に支えていく環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、家族がいつでも面会出来るよう配慮したり、外泊支援等を行なっている。また、地域のイベントに参加したり、母体法人主催の行事に招待するなど、日頃から社会との関わりを支援している。	仕事帰りの遅めの時間に来訪する家族や、県外から来て泊まる家族もあり、利用者本人と過ごせるよう柔軟に対応している。診療所が同じ建物内にあり、利用者と知り合いの外來受診者との面会もできるよう診療所と連携を図る等、馴染みの関係維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの生活を把握して利用者相互の関係の理解に努め、気の合う利用者同士過ごせるよう座席位置を工夫したり、居室も自由に行き来が出来るよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には利用者、家族と相談し、納得してもらえるよう説明をしている。退所後も必要があれば可能な限り相談を受けるなど、継続した関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のこれまでの生活習慣や生活歴等を十分考慮し、情報収集と意向や希望の把握に努め、利用者の心身の状況も踏まえて職員全員で情報共有し、満足のいく事業所生活を送れるよう支援をしている。	利用者の思いや意向は日々の関わりの中での観察、家族等からの情報で把握し、職員間で共有されている。前回外部評価での「誰にでも分かりやすい記録方法の改善を期待したい」との指摘は改善されて見やすくなっているが、入所後の更新、追記が不十分である。	入所後の利用者一人ひとりの思いの変化について各職員がより明確に理解するために、個人のファイル(フェイスシート)に、赤字追記や別紙に記すなどして、更新、追記がされることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には利用者、家族から話を聞き、今まで利用していたサービス機関と連携して情報を集め、職員全員で情報共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートに個々の心身の状態を記録し、朝の申し送りや職員会議で話し合い、利用者個々の今出来ていることが継続して行えていけるよう、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から利用者個々の心身の状態や生活状況の把握に努め、職員会議での協議、申し送り等により情報共有し、定期的カンファレンスして作成している。家族からは面会時に意向や要望等を聞きし、介護計画に反映している。	定期的には3ヶ月毎、利用者の状態に変化があった場合はその都度、介護計画の見直しを行っている。モニタリングは利用者ごとの担当職員を中心に行い、利用者、家族の要望や意向を取り入れながら、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身の状況を個別日誌や変化があれば連絡ノートに記載し、職員間で情報を共有し、申し送り時やカンファレンス等で検討を行いケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からのニーズに対して、職員だけではなく、家族や主治医等に相談を行いながら必要なサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区長、民生委員、馴染みのある地域住民、ボランティア等との交流を通じて、利用者個々の能力に合わせ地域資源を活用し、その人らしく、豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々の病気や症状の把握に努め、日頃から主治医と連携し、体調の把握と管理を行うとともに、必要に応じて専門医受診の支援を行っている。	事業所隣接の母体法人運営の診療所をかかりつけ医とする利用者が多いが、眼科、精神科など専門医は、本人、家族の希望する医療機関を受診している。日誌や連絡帳、情報提供書、申し送りなどによる情報共有が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの病気や日々のバイタル、症状、排泄状況、食事、水分の摂取状況の把握に努めて訪問看護師と情報共有し、助言やアドバイスを受けて健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の都度医療機関と連携を図り、サマリー提供や必要に応じての退院カンファレンス参加で情報共有を行い、利用者、家族の意向を聞きながら支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には日頃から心身の状態を報告し、家族の意向を聞き、主治医を含め可能な限りその意向を尊重して重度化時の支援を行っている。	入所時、家族には看取りに関する指針を説明し、意向を確認している。職員は年2回母体法人病院での研修も受け、看取りに対する体制は整えているが、家族は入院を希望し、これまで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は外部研修を受講し、緊急時の対応マニュアルに沿ってホーム内で学習会を行ったりして、AEDの使用方法を確認し、一人ひとりの対応能力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団員や婦人クラブと共同で災害時のマニュアルを作成し、合同で検討会や訓練を行い、協力体制を築いている。事業所内でも連絡網を作り、職員全員に周知して、災害の備えをしている。	地域の消防団員、婦人クラブと話し合いマニュアルを作成し、双方が所有している。災害訓練は年2回実施し、地域住民、利用者も参加して、ふとんや畳を使っての階段避難訓練等を行っている。事業所は地域の避難場所にもなっており、必要な物品が3日以上備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを心掛け、排泄時などには、周囲に配慮しながら、自尊心やプライバシーを尊重した声掛けを心掛けている。	利用者がそわそわしたしたら、さりげなく声を掛け、トイレ誘導するなど、個々に合った対応をしている。また、職員の配慮の足りない言葉掛けがあるような場合には、管理者が注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でゆっくり話しをして希望を聞き、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが可能な限り自分のペースで過ごせるよう、個々に合わせた生活のリズム作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びや髪型のセット等は、利用者本人の意向を聞きながら支援を行っている。希望があれば美容院、衣類の買い出し等への同行をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったメニューを心がけ、盛り付けや彩りなども工夫して、職員も一緒に食事を取ったり、穏やかにゆったりとした雰囲気の中で食事が出来るよう工夫している。利用者個々の能力に応じて、野菜等の下処理や調理、食器吹き等を一緒に行っている。	利用者に何が食べたいかを聞き、献立に取り入れている。季節の食材を使い、懐かしいメニューを考えての調理、盛り付けの工夫が施され、利用者の完食率も高い。利用者は、食器拭きなどできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況、嗜好、食事を職員全員が把握し、盛り付けや食材の形態などを工夫して、必要な栄養が安定して摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時に歯や口腔の状態を観察し、個々に合わせた口腔ケアを実施している。歯科医に口腔ケアの指導をしてもらったり、往診での対応もしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンなどを排泄表を活用して把握し、個々の能力に合わせて、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	個々の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導等の自立に向けた支援に取り組んでいる。日中のオムツ使用者はおらず、夜間のみ5名がオムツを使用している。パット使用者は5名で、希望で夜間のみポータブルトイレ使用者も数名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、個々の排便状態や有無を確認して、主治医に相談しながら排便の調整を行なうとともに、個々の状態に合わせて食事や水分の調整、運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制にあり、希望に沿って可能な限り入浴支援している。その日の体調を把握したり、好みに合わせた温度調整や、季節によりゆず風呂などを工夫する等、ゆったりと入浴が出来るよう支援している。	毎日の入浴も可能だが、週2、3回入浴の利用者が多い。全員介助が必要な状況にある。ゆず風呂やばら風呂など、季節の雰囲気味わえるように工夫している。特殊浴槽はなく、足の不自由な利用者はシャワー浴が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から日中の活動を心掛け、生活のリズムを作って利用者が安眠できるように努めるとともに、その状態に応じて休息を取れるよう支援している。自室の家具や飾りは馴染みの物を置き、寛げる空間作りを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じて、職員がいつでも確認出来るようにしている。主治医とも連携をし、薬の内容や副作用などの把握に努めている。服薬は、利用者個々の能力に合わせて、確認や介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に合わせて、洗濯たたみ、野菜の下処理、テーブル拭き等の役割作りを行い、張り合いのある生活ができるよう支援を行なうとともに、趣味を取り入れたレクリエーションを行うなどの工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気候に合わせて、できるだけ外出の希望に沿えるよう、家族とも協力して支援に努めている。事業所行事や季節ごとの花見など、外出の機会を作って、気分転換が出来るように支援している。	母体法人病院の福祉車両を利用することができ、全員で外出している。仁淀川、桜の花見、ドライブ、運動会などの外出機会がある。希望者は、隣接する道の駅にも出かけている。最近が高齢化が進み、事業所内の喫茶室を楽しむ利用者が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせて家族と相談の上、可能であれば、利用者自身が金銭を所持し、買い物ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話をかけ、家族や知人とのつながりが継続できるように支援している。毎月の事業所通信などを通じて、事業所での近況を家族に知らせいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同空間には季節の生花を活けたり、昔ながらの物を置いたり、利用者の写真を飾ったりして、和める雰囲気作りを工夫している。また、共同の椅子を置き、気の合った利用者同士会話ができる配慮をしている。	季節の生け花や利用者の笑顔の写真などがあちこちに見え、和やかな雰囲気を作っている。共同スペースや廊下には、布製のぬくもりのあるカバーの掛かった椅子やソファが置かれ、家族が来ても自由に会話ができる配慮が感じられる。オルガンも置かれ、歌や踊りを楽しむこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファや椅子を置き、利用者が自由に過ごせるよう工夫し、仲の良い者同士自由に行き来できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や服など、馴染みの物を持ってきてもらったり、写真を飾るなどして、本人の意向に沿った部屋作りを行ない、安心して過ごせるよう工夫している。	居室の窓からは仁淀川や木々が眺められ、どの居室も十分な広さがあり、清潔に保たれている。各々椅子や家族との写真、花などが置かれ、くつろげる部屋となっている。背の高い家具や危険な物もなく、床にもカーペットが敷かれて安全な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の能力に合わせて歩行器や車いすなどを使用し、手すりの設置など、室内の環境を整えて混乱を最小限にとどめ、安全な環境作りに努めている。		

ユニット名:

優

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: 修

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気、利用者の尊厳遵守、地域との交流という基本理念を玄関、ホールに掲示し、職員間で共有するとともに、ケアの実践ができるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加するほか、地域住民にも施設内訓練に参加してもらっている。畑を借りて野菜をつくり、野菜等のおすそ分けも得る等、日常的な地域との交流に努め、事業所が地域の拠点となるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民には職員から先に挨拶を交わすことにより、利用者とも自然なかたちで会話が生まれ、認知症高齢者に接する緊張感をほぐしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者入退所状況、ヒヤリハット件数、職員の研修会参加報告、事業所での活動状況等をきめ細かく報告している。毎月の事業所通信にも行事を満載して、日々の事業所生活の評価につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に数回行われ地域包括支援センターとのグループホーム連絡会に参加し、情報交換や勉強会を行い、日頃から相談できる協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県や町が主催する研修会への職員参加や、身体拘束ゼロの手引きを用いて内部研修を実施し、協議を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県が主催する研修会への参加や内部研修で高齢者虐待について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について戸惑う事のないよう、職員は、外部研修への参加や勉強会で、理解と知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書や契約書の内容説明を十分に行い、契約内容の理解、納得が得られるよう努めて、理解を得たうえで契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、行事の参加時等に機会を作り、家族が気軽に意見要望を出しやすいよう、信頼関係づくりに努めている。要望、褒め言葉は職員に伝え、職員の意欲向上や運営の改善につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開催し、意見交換の場を設けて情報共有を図り、できることから運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの長所を活かし、自信を持って能力が発揮できる、明るい職場環境づくりに努めている。また、職員の生活状況に合わせて希望を聞き、勤務シフトの調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が母体法人内外での研修に可能な限り参加できるよう配慮し、積極的な資格取得を促している。事業所内でも定期的に研修を行い、介護技術、知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡協議会や市町村事業での交流を通じて勉強会や事例発表を行い、職員の自信につなげ、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には本人、家族とも話しをして、不安や要望等を聞き、受け止めて、事業所生活での不安の解消に努め、安心して生活が出来るよう支援をいっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはじっくり話しを聞く機会を持ち、家族の状況や意見を聞くとともに、面会時等で日頃から気軽に相談ができる機会を作り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の状況や要望を聞き、入所前に利用していたサービス機関や医療機関等からも多くの情報を収集して、カンファレンス時等に検討しサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と日常的に接しながら、家事などを一緒に行うとともに、季節の行事、作法、料理などのアドバイスをもらうなど、互いに支え合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月の事業所通信や手紙、電話、面会時等に利用者個々の生活状況や心身の状況を伝え、情報を共有し、利用者を共に支えていく環境づくりに努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、家族がいつでも面会出来るよう配慮したり、外泊支援等を行なっている。また、地域のイベントに参加したり、母体法人主催の行事に招待するなど、日頃から社会との関わりを支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活を把握して利用者相互の関係の理解に努め、気の合う利用者同士過ごせるよう座席位置を工夫したり、居室も自由に行き来が出来るよう支援をしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時には利用者、家族と相談し、納得してもらえるよう説明をしている。退所後も必要があれば可能な限り相談を受けるなど、継続した関係を保っている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者個々のこれまでの生活習慣や生活歴等を十分考慮し、情報収集と意向や希望の把握に努め、利用者の心身の状況も踏まえて職員全員で情報共有し、満足のいく事業所生活を送れるよう支援をしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時には利用者、家族から話を聞き、今まで利用していたサービス機関と連携して情報を集め、職員全員で情報共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートに個々の心身の状態を記録し、朝の申し送りや職員会議で話し合い、利用者個々の今出来ていることが継続して行えているよう、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から利用者個々の心身の状態や生活状況の把握に努め、職員会議での協議、申し送り等により情報共有し、定期的カンファレンスして作成している。家族からは面会時に意向や要望等を聞きし、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や心身の状況を個別日誌や変化があれば連絡ノートに記載し、職員間で情報を共有し、申し送り時やカンファレンス等で検討を行いケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者からのニーズに対して、職員だけではなく、家族や主治医等に相談を行いながら必要なサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区長、民生委員、馴染みのある地域住民、ボランティア等との交流を通じて、利用者個々の能力に合わせ地域資源を活用し、その人らしく、豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々の病気や症状の把握に努め、日頃から主治医と連携し、体調の把握と管理を行うとともに、必要に応じて専門医受診の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの病気や日々のバイタル、症状、排泄状況、食事、水分の摂取状況の把握に努めて訪問看護師と情報共有し、助言やアドバイスを受けて健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の都度医療機関と連携を図り、サマリー提供や必要に応じての退院カンファレンス参加で情報共有を行い、利用者、家族の意向を聞きながら支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には日頃から心身の状態を報告し、家族の意向を聞き、主治医を含め可能な限りその意向を尊重して重度化時の支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は外部研修を受講し、緊急時の対応マニュアルに沿ってホーム内で学習会を行ったりして、AEDの使用方法を確認し、一人ひとりの対応能力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団員や婦人クラブと共同で災害時のマニュアルを作成し、合同で検討会や訓練を行い、協力体制を築いている。事業所内でも連絡網を作り、職員全員に周知して、災害の備えをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアを心掛け、排泄時などには、周囲に配慮しながら、自尊心やプライバシーを尊重した声掛けを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でゆっくり話しをして希望を聞き、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが可能な限り自分のペースで過ごせるよう、個々に合わせた生活のリズム作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びや髪型のセット等は、利用者本人の意向を聞きながら支援を行っている。希望があれば美容院、衣類の買い出し等への同行をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったメニューを心がけ、盛り付けや彩りなども工夫して、職員も一緒に食事を取ったり、穏やかにゆったりとした雰囲気の中で食事が出来るよう工夫している。利用者個々の能力に応じて、野菜等の下処理や調理、食器吹き等を一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの身体状況、嗜好、食事を職員全員が把握し、盛り付けや食材の形態などを工夫して、必要な栄養が安定して摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時に歯や口腔の状態を観察し、個々に合わせた口腔ケアを実施している。歯科医に口腔ケアの指導をしてもらったり、往診での対応もしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンなどを排泄表を活用して把握し、個々の能力に合わせて、排泄の自立に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、個々の排便状態や有無を確認して、主治医に相談しながら排便の調整を行なうとともに、個々の状態に合わせて食事や水分の調整、運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制にあり、希望に沿って可能な限り入浴支援している。その日の体調を把握したり、好みに合わせた温度調整や、季節によりゆず風呂などを工夫する等、ゆったりと入浴が出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から日中の活動を心掛け、生活のリズムを作って利用者が安眠できるように努めるとともに、その状態に応じて休息を取れるよう支援している。自室の家具や飾りは馴染みの物を置き、寛げる空間作りを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は各自のファイルに綴じて、職員がいつでも確認出来るようにしている。主治医とも連携をし、薬の内容や副作用などの把握に努めている。服薬は、利用者個々の能力に合わせて、確認や介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に合わせて、洗濯たたみ、野菜の下処理、テーブル拭き等の役割作りを行い、張り合いのある生活ができるよう支援を行なうとともに、趣味を取り入れたレクリエーションを行うなどの工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や気候に合わせて、できるだけ外出の希望に沿えるよう、家族とも協力して支援に努めている。事業所行事や季節ごとの花見など、外出の機会を作って、気分転換が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせて家族と相談の上、可能であれば、利用者自身が金銭を所持し、買い物ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って電話をかけ、家族や知人とのつながりが継続できるように支援している。毎月の事業所通信などを通じて、事業所での近況を家族に知らせいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共同空間には季節の生花を活けたり、昔ながらの物を置いたり、利用者の写真を飾ったりして、和める雰囲気作りを工夫している。また、共同の椅子を置き、気の合った利用者同士会話ができる配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファや椅子を置き、利用者が自由に過ごせるよう工夫し、仲の良い者同士自由に行き来できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や服など、馴染みの物を持ってきてもらったり、写真を飾るなどして、本人の意向に沿った部屋作りを行ない、安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の能力に合わせて歩行器や車いすなどを使用し、手すりの設置など、室内の環境を整えて混乱を最小限にとどめ、安全な環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				